

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成25年5月9日 (2013.5.9)

【公表番号】特表2012-522278(P2012-522278A)
 【公表日】平成24年9月20日 (2012.9.20)
 【年通号数】公開・登録公報2012-038
 【出願番号】特願2012-503537(P2012-503537)
 【国際特許分類】

G 1 0 L 15/187 (2013.01)

G 1 0 L 15/197 (2013.01)

G 1 0 L 15/18 (2013.01)

【F I】

G 1 0 L 15/18 2 0 0 D

G 1 0 L 15/18 3 0 0 G

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月18日 (2013.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

変換プロセスによる音声列の変換のためにユーザ入力履歴を処理する履歴コンポーネントと、

短期記憶に適用される制約に基づいて、前記変換プロセスを前記ユーザ入力履歴に適応させる適応コンポーネントであって、前記短期記憶は、文脈依存確率の相違であり、前記変換プロセス中に単語の予期しない出現を抑制する、適応コンポーネントと、

履歴コンポーネントまたは適応コンポーネントのうちの少なくとも 1 つに関連付けられたコンピュータ可読命令を実行するマイクロプロセッサと
 を備えることを特徴とするコンピュータ実装音声システム。

【請求項 2】

文脈依存確率の相違に基づいて確率を高めることによって、前記制約を適用する制約コンポーネントをさらに備えることを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 3】

文脈依存確率の相違に基づいて確率を高めることによって、長期記憶に制約を適用する制約コンポーネントをさらに備えることを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 4】

前記適応コンポーネントは、長期記憶と、長期記憶に基づくベースライン言語モデルとの間の動的線形補間を実施することを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 5】

前記制約は、単語が候補リストの第 1 の候補以外であるとき、前記単語の確率を高めることを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 6】

前記短期記憶に適用される前記制約は、文脈センシティブ短期記憶バイグラム確率を利用することを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 7】

前記短期記憶に適用される前記制約は、単語および文中での前記単語の文脈に基づいて

確率を高めることを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 8】

前記文脈は、前記文中での前記単語に関連する先行文脈および後続文脈を含むことを特徴とする請求項 7 に記載のシステム。

【請求項 9】

前記適応コンポーネントは、候補リストの第 1 の候補と前記候補リストの選択された候補との間の相違に基づいてフラグ学習を実施し、前記選択された候補を、次の変換プロセス中の第 1 の変換結果位置に移動する学習アルゴリズムを含むことを特徴とする請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 10】

コンピュータ可読命令を実行するコンピュータシステムにより実行される方法であって、前記方法は、

変換プロセス中に、音声列の変換のためにユーザ入力履歴を処理する動作と、

前記変換プロセス中に前記ユーザ入力履歴に制約を適用して単語の予期しない出現を抑制する動作であって、前記履歴は、短期記憶として文脈依存確率の相違および長期記憶として単語の先行文脈の頻度を含む、動作と、

前記制約に基づいて、前記変換プロセスを前記ユーザ入力履歴に適応させる動作とを含むことを特徴とするコンピュータ実装音声方法。

【請求項 11】

文脈依存確率の相違に基づいて確率を高める制約を適用することをさらに含むことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

長期記憶と、前記長期記憶に基づくベースライン言語モデルとの間の動的線形補間を実施することをさらに含むことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 13】

単語が候補リストの第 1 の候補以外であるとき、前記単語の確率を高めることをさらに含むことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 14】

単語および文中の前記単語の文脈に基づいて確率を高める制約を前記短期記憶に適用することをさらに含むことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 15】

候補リストの第 1 の候補と前記候補リストの選択された候補との間の相違に基づいてフラグ学習を実施することと、

前記選択された候補を、次の変換プロセス中の第 1 の変換結果位置に移動することとをさらに含むことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。